

安心して最期のケアをしてあげたい！

エンゼルケアの コミュニケーション

患者さんに看護師として行う最期のケアともいえる「エンゼルケア」は、ご本人にとって、ご家族に対してとても配慮が必要となる大切な行為です。

ご家族とのささいな行き違いからトラブルになることもあるので、エンゼルケアのコミュニケーション能力を高め、安心して最期のケアを行いませんか？

エンゼルメイク

亡くなったその人らしい容ぼう・装いに整えるケア全般のこと。つまり、身だしなみの整えのこと。保清や臭気対策、更衣、顔のメイクなど。

エンゼルケア

エンゼルメイク、創部への処置、家族への対応など、担当している間のすべての死後ケアのこと。



エンゼルケア料の請求額を知ろう

エンゼルケアについてコスト請求を行っている施設がほとんどです。

請求項目名は「死後処置料」。診療報酬は亡くなるまでが基本的な範囲で、その後の対応については「療養の給付と直接関係ないサービス」として実費徴収が認められているのです。施設ごとにその料金を決めているため、数千円～6万円程度と額にばらつきがあります。1万円～2万円という額が多い印象ですが、某有料老人ホームでは10万円であると聞いたこともあります。勤務先においての請求額はいくらなのか、まずはそれを知ってほしいと思います。

以前はエンゼルケアにはコストが発生していないと思い込んでいる看護師が少なくなく、「多忙な業務の中、エンゼルケアはどうしてもできる範囲での実施となってしまう」という話をよく聞いたものでした。請求額に見合ったケアができていないか、といった視点でケアを検討し、亡くなった方のご家族に問われても適切に説明できる準備をしておくことが大切です。

請求額の内訳も確認してみよう

施設によっては、請求額を算出した内訳が存在する場合があります。

図1は某病院の算出の内訳です。まず看護師の人員費を平均時間給から割りだし、それにエンゼルケアを担当する看護師の人数を掛け、夜間の場合は夜間加算をした額を出します。それに、エンゼルケアでどなたにも使用する材料費をプラスしています。例えば、看護師二人が30分に対応するとして算出している場合、その人数と時間を確保してエンゼルケアが行われなければならないということになると思います。

エンゼルケアは、基本の流れをアレンジし、そのケースごとにご家族の希望を中心とした柔軟な対応をすることに大きな意味があります。ケースによってケアの内容が違ってきますので、図1のような時間給で算出する発想はエンゼルケアの性質にフィットしていると思われず。

エンゼルケア料(死後処置料)

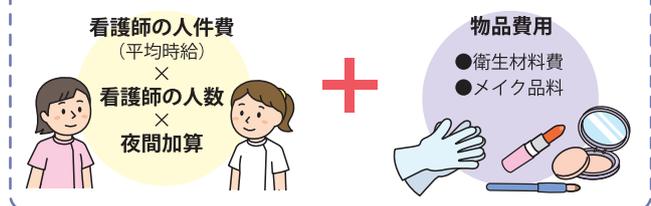
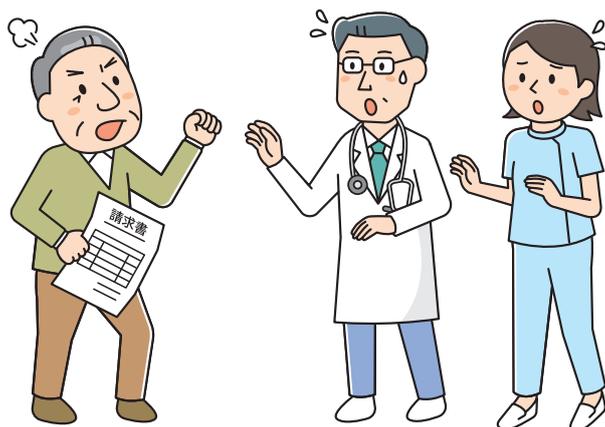


図1 エンゼルケア料の例

「ご家族同室」と「了承を得て進める」の必要性について

数年前に某病院で「死後処置料」にまつわる問題が発生しました。

ある方が亡くなり、エンゼルケアが行われ、ご退院の前にご家族が病院の支払いを行いました。その際にご家族は、請求書の項目の「死後処置料」を指さし「これはなんですか?」と問うたので、施設側がエンゼルケアを行ったことを説明すると、ご家族は「それは頼んでいないので支払いません」と言われたそうです。



これまでもそして現在も、事前にエンゼルケアの実施の料金についての説明を行っている現場は多いとはいえません。

こうしたトラブルを回避するために現実的な取り組みとして重要なのは、エンゼルケアを実施する際には、必ずご家族(近いご家族が混乱されていて無理な場合にはご家族側のどなたか)に同室していただき、医療器材を外すことや、保清や更衣、顔のエンゼルメイクなどなど、実施内容を説明し了承を得ながら行うことだと考えます。亡くなって退院する際に問題が起きてしまったことは、ご家族のグリーフワークにもプラスになるとは思えません。

関連書籍

『ナースのための決定版 エンゼルケア』(学研メディカル秀潤社)

『説明できるエンゼルケア』(医学書院)

『ご遺体の変化と管理』(照林社)



コミュニケーションの充実に向けて知っておきたいこと②

「事前の看護計画」と「詳しい看護記録」をおすすめします

事前の看護計画

あらかじめ予測されるケースに限りませんが、エンゼルケアにまつわる看護計画(メモ的な記述でもよいでしょう)を事前に記しておくことをおすすめします。どの時間に誰が担当しても、計画を確認して実施することができるからです。

例えば気管切開をしている方は、衣類を準備していただくときに、カバーした気切部が見えにくい衿のある衣類やスカーフなどをお持ちいただく提案をすること、すでに相談が済んでいればその結果を記しておきます。

また、腹水のある方について、腹水を排出することをご家族が希望した場合、その希望に添うのかどうか、主治医の方針を確認して記しておくなどもよいでしょう。

エンゼルメイクでお召しいただく衣類の準備について「どのタイミングでどのようにご家族に声をかけたらよいか」という質問をよくいただきます。その場合、主治医がご家族にご覚悟をうながすなどの病状説明を行った直後に、「つきましては、万が一ののために、お帰りのためのお召し物をご用意いただいております。ご家族は帰るときの衣類の準備まで気付く余裕がないことがあり、「それははっきり事務連絡として言ってほしい」と亡くなった方のご家族から経験談として教えていただきました。



詳しい看護記録

ケースによって柔軟な対応を行なうのがエンゼルケアの望ましい方向性です。したがってそれぞれ行われる内容が違ってきます。ある方はベッド上のシャンプーや手浴・足浴をご家族とともに手厚く行った、ある方は顔の腫瘍のカバーに時間をかけた、あるいは黄疸の肌色の変化へ向けての対処法の説明に時間をかけたなどなど。

何と何を行ったのか、どんな場面だったのかを、もしご家族が後になって確認したいという場合までも考慮し、それを示す記録が存在することは大事です。

ただ、多忙な業務の中ですから、あらかじめエンゼルケアの実施項目を作っておき、それをチェックするような記録方法が望ましいでしょう。



アドバイザー

小林光恵(こばやし みつえ)

エンゼルメイク研究会代表

1960年 茨城県行方市生まれ

東京警察病院看護専門学校卒業後、看護師として東京警察病院、茨城県赤十字血液センターなどに勤務のち、出版関係専門学校を経て編集者として各出版社に勤務。1991年に独立し、執筆の仕事が中心となる。「おたんこナース」「ナースマン」など、看護に美容ケアをいかに代表